

◆ミニ研究会・teku-teku 共同企画 2015★戦後日本住宅伝説＋八王子花街（活動記録）◆

企 画■建築家の原点を訪ねて（3）～戦後日本住宅伝説展＋甲州街道・八王子花街～

日 時■2015年7月19日（土）13:30～17:00

コース■京王八王子駅＜集合＞―（路線バス）―八日町再開発＋八王子夢美術館「戦後日本住宅伝説」展～
～旧甲州街道・八王子宿界隈～八王子花街・黒堀通り＜意見交換＞

参加者■◎二瓶正史＋大竹 亮（コーディネーター）

加藤春生、岸岡のり子、鈴木丞治、古屋綾子、堀川雅代、薬袋奈美子（以上8名、敬称略）

企画主旨■八王子市夢美術館で開催中の「戦後日本住宅伝説～挑発する家・内省する家～」は、戦後日本を代表する16人の建築家の住宅作品を取り上げ、写真・図面・模型・映像等でその思想を再現しようとするものです。昨年秋に埼玉県立美術館に始まり、広島現代美術館、松本市立美術館を経て、八王子市夢美術館に戻ってきました。この機会に訪れて、戦後建築の歩みを振り返り、住宅のあり方を考えてみましょう。

また、会場の八王子市夢美術館のあるビュータワー八王子は公団が参加した八日町再開発による建物で、上層階はUR賃貸住宅です。さらに、一帯は旧甲州街道八王子宿であり、伝統商家の面影が伝わってきますし、近くには伝統的な花街であった一画も残っています。八王子中心街を歩き、歴史と現在を体感しましょう。



八日町再開発ビルにある八王子夢美術館



戦後日本住宅伝説展・エントランス

＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1◆「戦後日本・住宅伝説」展について

評価:4.71 内訳:AAAAAAB

評価A●丹下健三から安藤忠雄まで、まさに建築家の歴史を見させていただきました。我々の世代では現役時代に並行していた建築家も多々あり、歴史というよりは「現代の」というタイトルを付けたくになります。それぞれの作品に模型が展示されていたのでいっそう臨場感がありました。

評価A●それぞれ有名な作品で図面は知っていても、模型や写真で詳しく展示されると臨場感を持って理解できた。建築家の原点ともいえる作品群であり、戦後日本建築の流れも実感的に把握できた。多くの人が訪れていたが、住宅という親しみやすい分野から建築に興味を持つ人が増えるといい。

評価A●個々の作品について見聞きしてはいても、同じ場所に展示されることで、思想を比較できて時代の違いもクリアになりとても有意義でした。また、動画での作品紹介は思いの外インパクトがありました。

評価A●セレクトの観点は不明な部分もありますが、これだけ時代のエポックメイキングの住宅を並べると、比較的に特徴が浮き上がってくるのが面白い。何度見ても新しい発見がある。さすが名建築。

評価A●解説をじっくり読みながら回り、また映像による情報もたっぷり見られたので、どの住宅もその時代背景を反映したものであることの理解が深まった。また、建築家は自邸で様々な挑戦や実験をしているのだなと思いました。

評価A●住宅を「買う」という意識ではなく「造る」という意識で建築していた時代の住宅建築のすばらしさに感動しました。また、世界的にも有名な建築家の住宅設計は、代表する建物とは違い、別の面を発見したようで感動しました。

評価B●丁寧な模型、原寸大写真のタペストリなど面白い企画でした。住宅は実際に訪問する機会が無いので、楽しめました。

2◆最も印象的だった住宅（建設年代順）

丹下健三／住居★あくまでも美しいプロポーションに魅入られました。「自分が住むなら…」という感想を超越した建築としての美しさがありました。そのほかの作品もそれぞれ作家の意図を想像しながら楽しく拝見しました。

菊竹清訓／スカイハウス★変化のプロセスをよく見たのは初めてでしたが、設計思想をうまく活用し続けている点が面白いです。

東孝光／塔の家★住まい方も含めて、この家が戦後の日本（東京という都市）で一番象徴的なような気がしてきました。周りの建物の変わり方も含めて劇的。また開催期間中に建築家が他界したのも、何かの因縁か。

東孝光／塔の家★外観には実物でなじんでいたが、内部の写真と図面を見て「縦に伸びるワンルーム」であることを再発見した。家族の生活が、狭いながらも絶妙の距離感と一体感でうまく収まっている。

東孝光／塔の家★当日は他の建築家の建物が印象的だったのですが、後々思い出すと東孝光邸の吹き抜けと階段とで縦につながる空間で家族が仲良く暮らすイメージが、印象的にじわじわと脳裏にありました。RC打放しの中の木や内装色味も素敵でした。

坂本一成／水無瀬の町家★外観はおとなしめですが、内部はとても居心地が良さそうで、住んでみたいです。

白井晟一／虚白庵★秋田で初期作品に親しんだため、ちょっとしたディテールにも懐かしさと共感を得ました。

宮脇檀／松川ボックス★Nさんの解説付きで楽しめました。

毛綱毅曠／反住器★図面を見ても写真を見ても全体構造がよくわからない奇妙な空間なのだが、建築家の母が内部で自然に暮らしているらしいのが不思議と安心できる。

黒川紀章／中銀カプセルタワー★積み木の樹木のような集合形態とシステムも独創的だが、住戸の中は設備や家電製品が壁面に美しく組み込まれ、宇宙船内部のような未来的空間を現出していた。

原広司／原邸★この風変わりな作品の全貌をようやく理解できた。敷地との関係、豊かな共用空間など魅力的。

3■今後の住宅に対する建築家の役割はどうあるべきか

●今回の展示を見て、戦後住宅への建築家の提案は「核家族単位」の住まいだと再認識した。今後の家族解体、少子高齢化、シェア居住など「個人のゆるやかな結合」の時代に向けた集合居住の提案を期待したい。また、本格的なりノベーションの可能性も展開してほしい。それらは、現在の市場で量産されている分譲マンションやミニ戸建に警鐘を鳴らすであろう。

●やはり建築家は時代に対して象徴的な住宅のあり方を示して欲しい。またそれとは別に所謂オーディナリーアーキテクチャー（普通の建物）という観点で、何かできないのか？ 戦後の一般的建物の質はあまりにも寂しい。特に都市との関係において。

●住まう形態がどんどん変化していく時代です（例えばシェアハウス）。あえてそれを建築家が主導すべし、とは思いますが、それぞれの思想を建築形態に具現化できる想像力・創造力が求められます。

●基本的には、暮らしやすい家の追求。使い続けられる家の模索。そして人と人の上手く考えられる（閉じすぎず、開きすぎず）場を提案してほしい。

●構造種別、工法、間取り、内装、設備、様々な選択肢があり、また人もそれぞれのライフスタイル、家族構成、性格があります。個々に合った最善の暮らしを検討し造り上げていくお手伝いをすることが、建築家の住宅建築における役割と考えました。



16人の戦後建築家の住宅作品を一括展示



関連図書・資料等が並ぶミュージアムショップ

4◆旧甲州街道・八王子宿界隈について

評価:3.00 内訳:BBBBBBー

評価B●旧甲州街道の重要拠点だった時代の面影として、間口が狭く奥行きが長い町割りが続き、いくつかの老舗が伝統を大切に営業し続けている。町家保存やリノベーション活用が望ましいが、建替えてマンションになるにせよ、低層部分は店舗が頑張って町の持ち味を継承してもらいたい。

評価B●古い宿場町ゆかりの建物を壊すことなく改修や用途変更により新しく生まれ変わっている建物もあり、現代の建物とうまく調和していることに感動しました。

評価B●ユーミンの実家の呉服屋さんなど、古くからの商店が元気に営業をしていることに感動しました。

評価B●経済的にポテンシャルが維持されているので、それなりに良いと思う。また地主がまだ商売をしている例が多いので、街道のDNAが残っている。ただし町並みとしての魅力はあまりない。

評価B●まちの作りとして歴史を感じるが、もう少し一般市民にアピールする工夫があってもよいかと思いました。個店の方々と話しながら歩けたのはとても良かったです。

評価B～C●呉服屋・帽子店・陶器店など昔ながらの業態が見られる点はやや評価できるが、旧街道の雰囲気あまり残されていない。行政としてもう少しアピールできる仕掛けが必要ではないかと感じました。

評価ー●八王子市民の台所を垣間見る気がして好きです。八百屋さん等の生鮮食品の店があり、何より鯉節専門店が複数あるのが驚きです。お店の方に聞くと、昔からのお客さんだけでなく、小さい子供のいる方が、体に良いものをとということで、鯉節を買いに来るそうです。勿論豆などの乾物も。



旧甲州街道・八王子宿のモダン銀行建築



旧甲州街道・八王子宿の面影が残る商店街



和菓子屋、陶器店、呉服店などが連なる



なかには商家建築をリノベーションしたショップも

5◆八王子花街・黒塀通りについて

評価:4.00 内訳:AAABBBー

評価A●かつての大宿場町、絹の集散地にふさわしく、立派な花街の面影が残されていた。料亭は敷居が高いが気軽に入れる工夫をしているお店もあり、路地の散歩は心地よく、新しい焼鳥屋も楽しかった。

評価A●黒塀通りに入ると、まるで別の町、時代に来たかのような気分になりました。街並み保存の必要性を改めて感じました。

評価A●ふらりと入った料亭の、景色も料理も最高でした。次に入った焼鳥屋も今風な味付けで、世代交代が上手く行っていると感じました。狭いながらも味のある佇まいで良い雰囲気です。

評価B●黒塀そのものは後付かな？ 以前はなかったような気がします。路地空間と中に立ち入らないと気付かない旧待合+庭園など、掘り出すと面白い空間・建物がありそうです。

評価B●何回かこの道は歩いているのに、この界限はまったく知らなかったのに、興味深かった。粋筋の店は頑張っていると感じた。

評価B●一画だけだった。あの情景・風情を生かして広げる工夫を期待したい。



駅から斜めに伸びる長い歩行者専用モール



花街の風情を伝える黒塀通りのまちなみ



八王子花街・黒塀通りの一角に残る料亭



由緒あるある建物で営業する料亭内部

6 ■今回の企画についての感想など

●ミニ研究会としては異色の展示見学ですが、良い催し物があればぜひ参加したい。大都市・東京の優れた点は、そういう企画が手近に見られることだと思います。(K・H)

●突発的な企画と呼びかけでも、これだけ楽しめるので、こういう思いつき企画もありだと思ふ。(N・M)

●Nさんから、宮脇檀の施主に対する真摯な態度とマニアックな「質問魔の癖」をお聞きし、彼の作品の完成度がとても高い一因を理解しました。(S・J)

●ご案内いただかなければこの展覧会自体を知りませんでしたし、知っていたとしても一人で訪れたのではあのような濃〜い時間を過ごすことは出来なかったと思います。ありがとうございました。また機会がありましたら、よろしくお願いいたします。(K・N)

●初めて参加させていただき、ありがとうございました。

次回もぜひご案内いただければ幸いです。(H・M)

●声をおかけいただきありがとうございました。一緒に回れませんでした、面白い企画を見学させていただき、良かったです。(M・N)

■コーディネーターより

●職場の先輩からこの戦後日本住宅伝説展を教えてもらったのですが、Nさんと相談して最終日近くに無理して行って良かったです。しかもせっかく八王子まで行くので、宿場と花街の散策もセットにしてミニ企画に仕立てたところ、直前の呼びかけにもかかわらず多数の参加をありがとうございました。また、こういう企画をやりましょう！(O・R)



戦後日本住宅伝説展ロビーの東孝光作品前にて